

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業				
事業名	ととりの芸術宅配便						
目的・内容	県内の小中学校、特別支援学校等に県内のアーティストを講師として派遣し、鑑賞型、体験型の公演やワークショップ等を実施し、子どもや青少年の文化芸術体験の充実を図る。また、創造的な未来と次世代の育成のため、教育と交流の視点から基盤整備を図る。本事業を通じて、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育成し、文化人口を拡大する。						
開催時期	平成23年6月～平成24年2月(60回61校実施)						
会場	県内小中学校、特別支援学校、公民館						
参加費	無料						
実施状況	総体験者数 9,582名						
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	5,245,000円	収支比率	—
	決算額	収入	0円	支出	4,024,793円	収支比率	—
参加者アンケート(主なもの)	<p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽は自分も幸せになれて、周りの人も幸せになれるととてもいいことなんだと思いました。</li> <li>・なんかワクワクするような曲でおもしろかったです。知らない楽器を見たり、聴いたり、触ったりできてよかったです。リズムに合わせて踊るのが楽しかったです。</li> <li>・私は最初「ダンスなんて苦手なのに無理」と思っていました。でもやっているうちに「なんか楽しい」と思うようになり、終わった後は「やればできるんだ」とびっくりしました。家族にも見せてあげたいです。</li> </ul> <p>[先生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌って踊って、自分を表現することの楽しさ、やってみたいけど恥ずかしい、だけど自分もやっぴいんだ、やればできるということを体感できたように思います。この経験が自主性を生み、人間関係においても子どもたちの背中を押して自信へと繋がる気がします。</li> <li>・普段学校でしている音楽の学習は、音階やリズム、歌詞などにこだわることが多いですが、アフリカ民族音楽では、自分が感じたまま思うように表現でき、どの子も心を開放して楽しめたのでよかったです。</li> <li>・自分にはできないとあきらめていたことができるようになり、何度も繰り返し練習することや、あきらめずに挑戦することの大切さを学んだようです。充実感とともに大きな自信を得たようです。</li> </ul>						
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の学習の補完となるような体験活動を取り入れ、生きた教材として学校教育の中に位置づけることができた。</li> <li>・本事業をひとつのきっかけとして、学年単位などで学習発表会や連合音楽会などで演奏発表が出来るようになった。</li> <li>・可能な学校では保護者や地域住民の方々にも呼びかけ、子どもたちと一緒に鑑賞することで、ホールへ足を運ぶことが難しい方々への芸術鑑賞の場を提供し、文化芸術に対する興味関心を高める機会へと繋げた。</li> <li>・財団情報誌アルテ3月号で本事業を取り上げ、事業の概要や様子を発信した。</li> </ul> <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は講師の日程が合わなかったため、研修に参加することができなかった。</li> <li>・西部地区の実施校を増やすこと、新規の講師を登録して、さらに講師陣の充実を図ることが課題である。</li> </ul>						
2次評価(財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育成し、鳥取県の文化人口を拡大させるためにも、本事業は大変大切な事業である。</li> <li>・本事業を通じて芸術鑑賞・体験した学校は、この事業の良さを十分に理解していると感じる。なかなか生の鑑賞、そして楽器を弾いたり、一緒に歌ったりといった体験ができない児童生徒にとって、本事業での教育的意義は高いと感じている。</li> </ul> <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生の芸術鑑賞だけでなく、体験・レクチャーの機会をできるだけ設定することによって児童・生徒の興味関心は格段に高くなる。できる限り体験等は今後も増やしてほしい。</li> <li>・西部地区の実施校が少ないということだが、やはり、案内等を実際に出向いてPRしていくことを積極的にしていくことも大切ではないかと思う。</li> </ul>						
今後の対応、取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加できる研修を増やすとともに、早い時期に情報を提供し、参加者の選定を行う。また、担当者のコーディネート力、講師のスキルアップ、教員への啓発などを行うとともに、財団、各講師、学校の意識や意見を合わせ、連携して事業の向上を図る。</li> <li>・未実施校については、県教育委員会等と連携して教職員の研修会等に事業説明を行うことや、西部地区の未実施校に対して聞き取りとアプローチを改めて行うこととする。</li> <li>・新規の講師登録については、登録基準・選考方法を明確にしてオーディションを実施し、より幅広く芸術を子どもたちに宅配するとともに、県内アーティストの活動の場を広げていく。</li> </ul>						